



令和5年12月
浜松市立赤佐幼稚園

おたのしみ会 大成功！

11月29日～12月1日。3日間のスケジュールで学年別のおたのしみ会が行われ、子供たちがさまざまな方法で表現遊びを楽しむ姿をお家の方に御覧いただきました。先生や友達と一緒に歌ったり踊ったりすることを楽しむ姿、役になりきって自分なりの表現を楽しむ姿、友達と動きや気持ちを合わせてやり遂げようとする姿など・・・、その学年、その子ならではの良さや育ちを感じてもらえたのではないかと思います。お家の方々の大きな拍手、温かな眼差し、終わった後の愛情たっぷりのハグや言葉掛けが、子供たちの心の基盤づくりにもなり、その後の人生を支えてくれることと思います。ありがとうございました。



年少組の担任が、終わった後の学年だよりでこんな裏話を披露しています。

～『うさぎ野原のクリスマス』衣装裏話～

衣装姿を見て、「わ～！かわいい🍀」の声が聞こえてきました。嬉しい声でした。事前のおたよりでもお伝えしたように、子供たちが自ら選んだ衣装です。担任の思いとしては「男児が水色の燕尾服、女児がピンクのワンピース」と決めていました。

しかし、衣装を見た子供たちの反応は違いました。思い思いに色や形を選んでいる姿を見て、「決めつけてはいけない・・・」と考えさせられました。そこで、一人一人が着たい衣装を着て、踊ることを楽しんでもらいたいと思い、事前に調査をしました。お子さんが選んだ衣装はいかがでしたか？ イメージ通り？ 意外！？ どの子も嬉しそうに着てくれて、可愛い姿に担任としては大満足です！

男の子であっても「ピンクが大好きだからその色にしたい」という姿。逆に、女の子であっても「燕尾服の形が恰好いいから着たい！」という姿。どちらも、あっていいですね。その子らしい選択、表現を大切にしたい、と思う担任の判断から生まれたエピソードでした。



～おたのしみ会 後日談①～

年中組では、保育の中で年長組の劇（ブレーメンの音楽隊）を見せてもらうと、後日、以下のような遊びの姿があったことを担任が振り返っていました。

ブレーメンの音楽隊(年長組の劇)を見た影響もあってか、楽器づくり、演奏会ごっこで遊んだ。輪ゴムやキャップなど、使われていたものをよく見ており、自分で材料を組み合わせようとする姿があった。



劇では、動物たちがラッパやギター、カスタネットやタンバリンなどの楽器を手に持ち、演奏会を行う場面があります。その時のにぎやかな様子に加え、身近な素材で作られた楽器が強く印象に残り、自分たちもやってみたくなったのでしょうか。それが、上記の姿として表れたことと思います。楽器ができると、お客さんを招いて演奏会を楽しんでいた子供たち。思いが実現できた充実感から、友達との関わりを深めていく様子が見られました。遊びのきっかけは、いろいろなところにあるものですね。

～おたのしみ会 後日談②～

おたのしみ会が終わって数日後のこと。年中組の子供たちが年長組の劇「ブレーメンの音楽隊」をやりたくなり、担任同士で打合せをして実現させる場をつくったことがありました。以下の記録は、年長組担任の視点で捉えた保育の振り返りです。

年中組さんとの劇遊びは、「やらせてくれる？」とお願いしに来てくれたことで、子供たちも頼られた嬉しさを感じながら関わろうとする姿が見られた。

衣装を着るのを手伝ってあげたり、楽器の扱い方を教えてあげたりと、劇遊びが始まる前から張り切っていた。年中組が困っていると手をつないで一緒に動いてあげたり、言葉を一緒に言ってあげたりと、相手のことを考えながら動く姿が見られ、やってよかったと思った。

年長組の子供たちが張り切って取り組めたのは、自分たちの劇に自信をもっていたことでもありますし、担任が述べているように「頼られた嬉しさ」が行動の源となっていたように思います。教師があれこれ指示を出さなくても自分たちで考えながら進めていた姿から、園が目指している子供像（自立と自律）の育ちが感じられました。

今の年長組の遊びを見ているようですが、何か困ったことがあっても自分たちで解決していこうとする良い雰囲気があります。共に育ち合い、3学期最後の園生活を自分たちの力で心行くまで楽しんでもらいたいと思います。

